

◆政府 子ども・子育て新システム検討会議

基本制度ワーキングチーム(第11回会合)開かれる

5月18日(水) 政府の子ども・子育て新システム検討会議の基本制度ワーキングチームの会合が開かれました。全日私幼連からは、北條泰雅副会長が出席しました。当日は「これまでの検討概要について」と「幼保一体化ワーキングチームの検討状況について」「質の改善について」の議論が行なわれました。

北條副会長の主な発言は

- ・資料内にM字カーブ(30歳代で低い女性の労働力率)の解消とあり、これは父母ともに働いていただきたいというメッセージに思える。しかし、それ以前に、わが国では子どもの育て方に対して丁寧な議論が行われなければならない。したがって現時点ではM字カーブの解消について、国民的合意はもちろん会議内でも合意に至っていないと思われる。
- ・質の改善は子どものための改善であることが前提である。
- ・新たな制度における価格設定のイメージは示された内容と実績に違いがあり、正確に実情を反映していただきたい。
- ・長時間の保育ニーズへの対応は、子どもの利益の観点に相反するものとなりかねないので充分に注意していただきたい。ワークライフバランスについて、しっかりと議論を行ない、子どもたちに過重な負担をかけないようにしていただきたい。
- ・給付率の改善について、引き上げの給付は公平性の観点から示された図に問題があると思われる。
- ・学級定員の見直しについては改善の方向が求められる。

その他意見

- ・震災を通じて改めて子育て分野の重要性を感じた。被災地から幼保一体化を推進していくべきではないか。
- ・いまだに財源について見通しがついていない中で幼保一体化の姿が見えないまま走り続けさせて良いものなのか。
- ・日保協の坂崎委員より学校教育法に0歳時から施設を位置づけるべきであるとの主張がありました。

[今号は1枚]

※都道府県団体におかれましては、お手数ですが本紙を加盟園へご伝達くださいますようお願い申し上げます。

※幼保一体化に関しましてご意見がありましたら全日私幼連宛にFAXまたはメールでお寄せください。

FAX : 03-3263-7038 メール : info@youchien.com

基本制度ワーキングチーム、幼保一体化ワーキングチーム、こども指針(仮称)ワーキングチームの会議資料等は、内閣府「子ども・子育て新システム検討会議」のホームページに掲載されています。
<http://www8.cao.go.jp/shoushi/10motto/08kosodate/wg/index.html>